

第13回 ハッタミミズ



ハッタミミズは、伸びると1mにもなり、日本で一番長いミミズといわれています。河北潟の八田地区から名前がついた生物です。胃が数珠のようにつながっているので、ハッタジュズイミミズとも言います。現在、石川県の河北潟地域と滋賀県でしか見つかっていません。

環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種、滋賀県では要注目種とされています。石川県のレッドデータブックは1999年に編纂されましたが、このときにはハッタミミズのことをまだ良く調べられておらず、リストには掲載されませんでした。当時は外来種である可能性も指摘されていましたが、最近になって研究が進み日本の固有種であること、またたいへん希少な生物であることがわかってきました。レッドデータブックの改訂作業の中で絶滅危惧I類となりました。

ハッタミミズは、おもに田んぼに生息する生きものですが、どのような田んぼでもいるというわけではなく、深い泥質の田んぼが適しているようです。つまり、湿田にしか生息できず、基盤整備事業のなかで乾田化された田んぼには、ほとんどみられません。また地元の話では、最近では昔のような大きなハッタミミズはみられなくなったということで、昨年おこなった私たちの調査でも、最大で60cm程度のものしか確認されませんでした。

ほ場整備は、河北潟の周辺の水田のほとんどに及んでおり、河北潟地域のハッタミミズは、絶滅の危機に瀕しています。生息数が多かった八田地区でも、現在ほ場整備作業が進行中で、一部の使われていない田んぼなどを除いて、今後の生息が見込めない状況です。そうしたなか、ハッタミミズの保全のための取り組みが始まっています。たとえば、金沢市の職員の方により、ほ場整備がかかる直前の田んぼで採集されたハッタミミズが、森本小学校で飼育され

ています (2008年9月30日北國新聞)。

このような現状におかれているハッタミミズですが、地元での人気はなかなかのもので、とくに八田町の年配の人には愛着のある生きもので、昔はウナギを捕るための延縄の餌として、他の地区までハッタミミズを取りに行っていたそうです。地中にいてあまり姿を見せない生きものですが、ミミズ類の中で一番愛されているミミズかもしれません。最近では、地元テレビ局からハッタミミズの歌が流れています。

滋賀県では、ハッタミミズをはじめ田んぼ生きものにより付加価値をつけた米の生産もおこなわれています (「たかしま生きもの田んぼ米」 <http://www.ikimonotanbo.jp/index.html>)。河北潟地域でもハッタミミズの居る田んぼをアピールする取り組みを考えたいものです。(文 高橋 久)